

2020年4月24日（金）

老球の細道536号

バスケットボール・ルールの変遷史プロローグ

会津バスケットボール協会 室井 富仁

非常勤勤務校も遂に休校となり、バスケットボール関係の仕事も皆無となった今、私はとうとうおこもりさんの日々を送らなければならなくなってしまった。こういう時こそバスケットボールで学んだ知恵「ピンチはチャンス」を実践に活かさなければならぬ。

せっかく有り余るほどの時間ができたので、バスケットボールに関して二つのプロジェクトを立ち上げた。一つは、今までクリニック等で指導してきた「トランジションオフENSEの段階的指導方法」についてまとめること。もう一つは、日本バスケットボール協会の歴史を振り返ることである。「何もできないコロナの日は下へ下へと根を下ろせ」

スポーツの歴史というものは、技術の高度化、競争の激化、そしてルールの複雑化の歴史であると『スポーツルールの論理』（大修館書店）で述べられている。偶然にも書棚に埃をかぶった『バスケットボールの歩み・日本バスケットボール協会50年史』と『日本バスケットボール協会80年史』を見つけた。その中に日本バスケットボール界のルール変遷の歴史が記されてあった。私自身のバスケットボール歴にも関係するので興味深かった。

バスケットボールが創られた当初の「13か条のルール」から現在は物凄い数になっている。審判だけでなく、コーチ、プレイヤーもそれらのルールに熟知していることはバスケットボールを極めるためにも必要不可欠である。また、ルールの変遷という切り口からバスケットボールの歴史を学ぶことは、さらにこのスポーツを愛することになるだろう。

そもそも私がバスケットボールのルールについて疑問を持ったのは中学校の時であった。初めてユニフォームを着た時にユニフォーム番号がNO4から始まり、なぜNO1、NO2、NO3がないのか不思議に思った（現在は二けたであれば何番でもOK）。当時は審判のジェスチャーと混同するからだと教えられた。NO1は「ワンスロー」、NO2は「ツースロー」、NO3は「3秒オーバータイム」だと記憶している。それが本当かどうかは定かではないが……。あれから50年以上経過するが、バスケットボールのルールは大小さまざまなルールが変化して現在に至っている。

『スポーツ教養入門』（岩波ジュニア新書）によると、スポーツのルールとは楽しむための具体的な約束事で、「いい」「悪い」を判断するものではなく、「楽しいか」「楽しくないか」が判断第一の判断であると記されている（法律とルールの違い）。そのうえで、ゲームを楽しむためにある「ルール」が果たす機能は3つあるという。

- ① 「空間・時間・人数・形式」などの物理的条件に関する「公平さ」と「共通化」
- ② 暴力を抑制すること
- ③ 面白さの保障

次号から「おこもりの友」になれるような「ルールの変遷史」をまとめて届けたい。